

小学生・中学生の
学習状況— 2023年小学生白書・
中学生白書から —

子どもたちの学び「好きな教科」に変化

学研教育総合研究所では毎年小学生を中心に調査を行い、結果を「白書」としてウェブで公開している。2023年も秋に調査を行い、12月末に子どもたちの生活実態について公開した。今回は後編として、その内容からお伝えしたい。

学研教育総合研究所 川田夏子

前号では主に小学生・中学生の日常生活についてお伝えしたが、今号では学習編として、教科や学びに関することを中心にご紹介したい。

ろうか。来年以降どのような変化が出るか、興味深い結果となった。

1位数学(22・2%)、2位英語(16・7%)、3位国語(11・8%)

◆ 好きな教科・嫌いな教科

毎年調査し、あまり変化のなかった項目だが、今年に変化があった。(図1)

〈小学生・好きな教科〉

1位体育(21・7%)、2位算数/図画工作(同率17・7%) ※4位は音楽で8・8%。

8年続いていた「算数1位」だが、今回は体育が1位に。体育は小学2〜6年生の各学年で1位だった。(1年生は算数が1位。)新型コロナウイルスの5類移行後、子どもたちの屋外での活動が活発になったなどの影響があるのだ

〈中学生・好きな教科〉

1位数学(21・3%)、2位英語/保健体育(同率12・5%) ※4位は社会(11・3%)

中学生の前回調査2020年秋では、1位数学(22・7%)、2位英語(14・5%)、3位社会(12・0%)。今回、中学生でも同率2位で保健体育が上がってきている。やはりコロナ禍からの反動があるのだろうか。ほかの教科との関係も見ていく必要があるだろう。

〈小学生・嫌いな教科〉

1位算数(22・8%)、2位国語(18・4%)、3位体育(8・1%)

〈中学生・嫌いな教科〉

小・中学生どちらについても算数・数学が1位、国語あるいは体育、英語が連なる傾向は前回と変わらなかった。

実はこの「好き・嫌い」の内訳で、前回から気になっているところがあった。これまでよく言われてきた「男子の好きな教科は算数で国語は嫌い、女子の好きな教科は国語で、算数が嫌い」という傾向についてである。

今回小学生では、その女子の「国語好き」が減り、算数とほぼ同率となっている(図2)が、昨年まで10年近く、この傾向が続いていた。教科に対する男女のバイアスについては、はからずも昨年東京都が調査結果を公表したので、ご存じの方もおられると思う。今後どう変わっていくのか、いずれにしろ注目して

図1 小・中学生 好きな教科・嫌いな教科

小学生(n=1200)					
一番好きな教科		%	一番嫌いな教科		%
1位	体育	21.7	1位	算数	22.8
2位	算数	17.7	2位	国語	18.4
3位	図画工作	17.7	3位	体育	8.1
4位	音楽	8.8	4位	図画工作	5.0
5位	国語	8.1	5位	社会	4.3

中学生(n=600)					
一番好きな教科		%	一番嫌いな教科		%
1位	数学	21.3	1位	数学	22.2
2位	英語	12.5	2位	英語	16.7
3位	保健体育	12.5	3位	国語	11.8
4位	社会	11.3	4位	理科	8.2
5位	理科	9.5	5位	社会	8.2

©学研教育総合研究所

図2 小学生 好きな教科

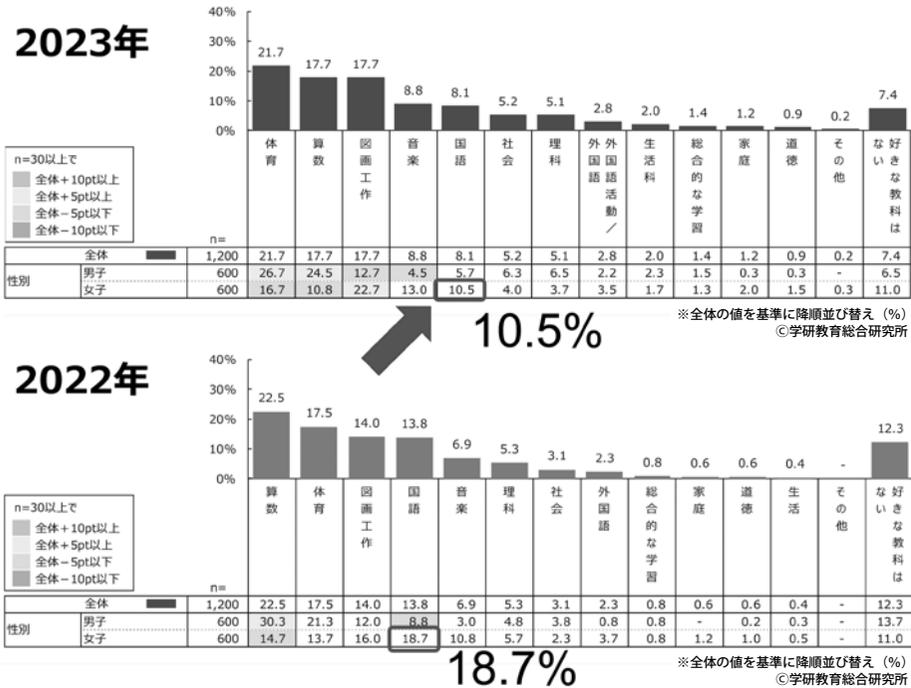
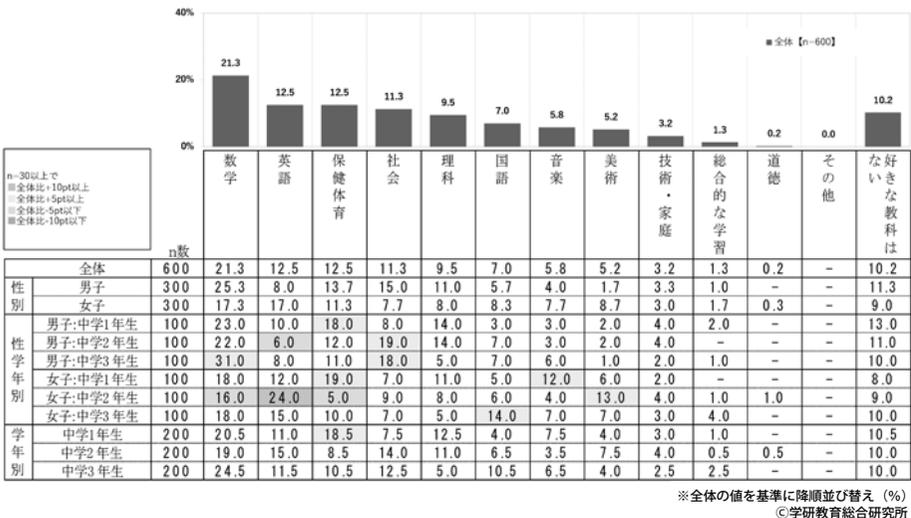


図3 中学生 好きな教科



いきたい。一方で、小学生・中学生ともに国語の人气が低いのが気になる。(図2、図3)長文を読み解く力、読解力の充実は、すべての学びにかかわる大切な力である。全体的な国語力の低下につながっていくのか、こちらにも注視が必要そうだ。

◆「わが子の将来に役立つと思う教科」は？

2022年調査の「将来役に立つと思う教科」。小学生では算数が1位だった。今回は、保護者にこの質問を投げかけてみた。昨年の児童の回答と比較してみたい。

〈小学生保護者・将来役に立つと思う教科〉

1位算数(22・6%)、2位外国語活動／外国語(20・0%)、3位国語(15・8%)

上位の教科は昨年の子どもの回答とほぼ同様だった。「外国語活動／外国語」は、子ども「好きな教科」「嫌いな教科」のどちらでもポイントが低い、「将来役に立つ教科」でのポイントは高い。また、「将来役に立つと思う教科はない」という項目については、2022年の小学生調査より、保護者のほうが1ポイントほど高かった。

◆生成AIの活用状況は…

昨年夏休み直前に、文部科学省から「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」が公開された。その後も、活用を検証するためのパイロット校が指定されるなど、AIは教育の場でさまざまに取りあげられた。実際に学校、家庭ではどうなのか。

〈小学生〉

対話型生成AIを学校で利用したことがある9・8%

対話型生成AIを家庭で利用したことがある12・5%

〈中学生〉

対話型生成AIを学校で利用したことがある16・2%

対話型生成AIを家庭で利用したことがある16・5%

小学校では試験的に実施している可能性が想定され、中学校では、活用まではいかないのが現状のようだ。家庭での利用状況も学校の状態とほとんど同じとなっている。実は、

それにもかかわらず「使用を制限したくない」と回答した保護者が7割〜8割いた。これからの取組が気になる。

ウェブ版の白書では、そのほかにも、中学受験、高校受験について、家庭学習の方法、学校との連絡手段、いじめなどさまざまな項目を公開している。小中学生の現在地を知る手がかりとしてご覧いただきたい。

〈2024年2月末現在公開されているその他の調査項目〉

得意な教科・苦手な教科、勉強をする場所、英語のリスニング学習について、受験情報の入手経路について、いじめ・長期のお休みについて、など各30問程度

「小学生白書」「中学生白書」
(2023年10月調査)



【調査概要】

調査対象…小学生・全国の小学1〜6年生とその保護者1200組、中学生・全国の中学1〜3年生とその保護者600組
調査期間…2023年10月27日(金)〜11月1日(水)
調査方法…インターネット調査